

国会正門前平和通信

創刊 2015 年 9 月 22 日
発行者 山田政夫(個人)
連絡先 国会正門前

6 月 16 日の
国会正門前から

放射性廃棄物の地下処分 1 万年は管理しない たった 100 年

6 月 16 日の国会正門周辺は交通量調査。

隊員は 派遣先では 消費材

へらすぐち亭 誤字脱字

院内ヒアリング集会で若手官僚

「変えていく気概を持ってないのか」

脱原発テントで。「院内ヒアリング集会で、若い官僚が、放射性廃棄物の管理は 100 年で、1 万年や 10 万年は管理しないと語っていた。日本列島の地層はかたくないし若い岩盤なので、1,000 年後、1 万年後のことはわからない。エベレストの 8,000m の頂上付近で貝の化石が発見されていることを考えると、地中に放射性廃棄物を埋めても地表に上がってこない保証はない。何を考えているんだろうか。

私は 2 ヶ月に 1 回、郡山や浪江に行っている。行くたびにプレコンバックが増えている。それを塀で囲って見えないようにしているところがある。政府はプレコンバックが破れたりして放射性廃棄物が漏れ出さないように補修すると言っていたが、3 年ほどでほころんだり、植物の芽が出たりしたことが報道された。地層処分もそうなるだろう。

文科省の女性官僚が、国策としてのエネルギー基本計画があるのだから私たちはその原子力発電の方針に従わざるをえない、と述べた。政府の方針がどうであれ、原子力発電がおかしいと思ったら、それを変えていく気概

を持ってないのだろうか。若い人があんなのだから、もって年番は疑の固まっているのだろう」

「昔は下に反発心のある人材がいた時代があった。若手がまとまって反対することができた」

「公式な立場で発言しているのだから録画させない理由はない。若手官僚なので責任もてないというのなら、責任をとれる立場の役人が回答すべきだ。議員会館に出席できない人にも国の考え方を伝えられるようにすべきだ。

本来なら、そんな無責任な対応ではなく、文書での公式回答もよこさなくてはいいじゃない」(6 月 4 日)

真実伝えない原発推進派学者

「自然放射線が DNA の鎖のうち片方を損傷しても、もう 1 本が鋳型の役割をして修復される。これを 1 日に何回も行っている。だから放射線は恐れる必要ないと、原発推進派の学者はいう。しかし、鎖が 2 本とも切断された場合のことを言わない。そのときは、鋳型の相手がないので、修復できない」



「カンバは辞退しております」

国会正門前平和通信に関わるメンバーは、現金によるカンパを辞退させていただき姿勢であります。ご理解の上、連帯と励ましのお言葉をかけてくだされば幸いです。通信はご自由にお持ちください。